



## 自分のできる限りの サポートを続けたい

Vol.85

中西 昭子さん  
(桂町在住)

「岩国ファミリーサポートセンター」の援助会員として子育てのサポートをし、「にっこりの会」のメンバーとして、こども館で子育て支援のボランティアをしている。



自宅で6カ月の赤ちゃんを預かってあやしたりオムツを替えたりと、かいがいしくお世話をしている女性、それが中西昭子さんです。ファミリーサポートセンターの活動で、援助会員として子供を預かるサポートを始めて15年になります。知人にファミリーサポートセンターへの入会を勧められ、援助会員になりました。センターの仲介で

依頼会員のお母さん・お父さんと顔合わせをし、その後、サポートの依頼があると本当にうれしいと、中西さんはほほ笑みます。

中西さん自身も55歳まで会社勤めをして、3人の子供の世話を義母にお願いしていたことから、育児と仕事の両立を手助けしてくれる人のありがたさを人一倍実感していると言います。だからこそ、今、自分が働くお母さんの力になれたらと思っています。

核家族が多く、頼りになるはずの実家が遠いため、気軽に子供を預けることができず途方に暮れる人たちは、ぜひファミリーサポートセンターを利用してほしいと願っています。習い事などの送迎を頼むこともできるので、とても便利だと

中西さんは話します。

今まで赤ちゃんから小学校高学年までの多くの子供たちを預かってきた中西さんが、サポートのやりがいや喜びを感じるのは、子供がなついでくれ、その笑顔を見るとき、そしてお母さんと親しくなりいろいろな会話ができるときだと言います。サポートが終わり子供が大きくなっても、お付き合いが続くこともあり、人と人との出会いはかけがえないものだと思います。にっこりの会では、こども館の開館当初から長く携わっている中西さんですが、来館した親子と関わったり、教材の準備などの手伝いを『させていただいている』そうです。

今後の目標は、健康で元気でいられる限り、ファミリーサポートセンターににっこりの会の活動を、自分のできる範囲で続けていくことだと意気込みを語ってくれました。

▼自宅で赤ちゃんを預かるサポートをしている中西さん



▲こども館での「にっこりの会」の楽しい作業風景



▲こども館を訪れた親子とのほっとする関わり